

ムをまとめるよう声を掛け合うことが良いと思います。遅れ始めた仲間の荷を分けることなどの配慮を積極的に行ってください。
安全のため、帽子・軍手・襟付き長袖シャツの着用は必要です。地図の手持ちは大会の特性上認めていますが、小さく置んでも持つこと、危険な所ではしまうなどの配慮が必要です。また、歩きながら記録やメモをとることは危険です。

審査員長	小沼拓也
副審査員長	森下 晃典
審査員	池迫一行 上平徳男 小林裕典 小西 透 佐藤雅彦 重田 肇 杉山昭久 竹内一郎 立木雅彦 中村隆幸 西野祐司 西牧岳哉 藤岡善弘 村主恭則 宮島幸一 横澤克彦 横山哲司

はじめに 今年は徳沢に165名の選手・オブが集い熱戦が繰り広げられました。ここ数年大会に参加する生徒や学校数が増えています。全県では生徒の数が減少する中、山に登る仲間が増えることは何より嬉しいことです。さて、登山で競技をする意味はなんでしょうか。他のスポーツと違い、勝利を目指とすることに意と感覚を覚える人もいるでしょう。確かに山登りは競り合いとは馴染まない行為です。ただ一方で、競技という形態は、技術や知識を真剣に学ばせる効果があります。今回の機会を通じて、身に着けた技術・体力を確認し、新たな知識の習得をしてもらえたなら幸いです。そして、登山技術の基本を学ぶ一方、それぞれの山へ出かけましょう。原則をおさえつつも、創意工夫することの素晴らしいことを山が教えてくれます。皆さんのがんの山行の安全と成功を祈ります。

以下に、今年度の大会の審査項目とその講評をまとめました。今後の活動に役立ててください。

I. 総合体力 (25点)

規定時間 男子6時間0分 (規定時間より2分遅れる毎に0.5点減点)
女子7時間0分 (規定時間より2分遅れる毎に0.5点減点)

打切り 2480m 地点4時間後 蝶ヶ岳ヒュッテ5.5時間後 横尾8時間後

【講評】

ほとんどのチームは規定時間内にゴールしたが、雪上歩きということもあり、慣れていないチームの大幅な時間オーバーもありました。山行をするうえで最低限必要な体力を身につけることは安全登山の第一歩です。日頃から山行に向けて体作りをしてください。

登山競技はスピード競技ではありません。前半と後半のペースがアンバランスなチームがありました。安全登山のためにもバランスの良いペース配分を心がけましょう。

II. 歩行 (15点) 3項目×5箇所 (1項目1点, 評価は0.5点刻み)

1. 審査地点および審査項目

- A 地点：標高1800m手前の急登・・・歩行バランス、チームワーク、帽子
- B 地点：標高2300m付近の雪上・・・歩行バランス、チームワーク、長袖シャツ
- C 地点：名無し池先の雪上・・・歩行バランス、チームワーク、首からのが下げる
- D 地点：標高2450m付近の雪上の下り・・・歩行バランス、チームワーク、スパッツ
- E 地点：標高1800m付近の雪上の急な下り・・・歩行バランス、チームワーク、パッキング

【講評】

雪上歩行に慣れないチームがいくつか見られ、急斜面でバランスを崩している生徒も少なくありませんでした。また、今回、雪上を滑って下つてもバランスを崩さない配慮もマナーとして大切だという意見もありました。様々な場面で状況に応じた歩行ができるよう山で練習を積んでください。

チームワークはおむねまとまりよく歩いていました。離れず互いを気遣いながら歩くこと、チー

III. 地形 (18点) 1地点1.5点 12地点設置

【講評】

今回フラッグを設置した地点は、屈曲点、傾斜転換点、小ピーカー、コル等です。読図が難しい地点はありましたが、得点率が5割以下のチームは基本的に読図力が足りません。普段の山行から1/25000の地図を用意し、現在地を地図に落とすなど、読図の訓練をしていきましょう。地図が読めることは登山を行う者にとって必須条件です。

雨の山行で、地図が破損しているチームがありました。マップケース、ビニール袋等で地図を保護するようにして下さい。

IV. 装備 (10点)

1. 個人装備 (6点) 6項目×1点 (下線のあるものは防水必要)
 - ①コンパス ②非常食 ③ヘッドランプ (予備電池含む)
 - ④ナイフ ⑤ホイッスル ⑥計画書
2. 共同装備 (4点) 4項目×1点
 - ①ツエルト ②修理具 (ペンチ又はプライヤー、針金、)
 - ③医薬品 (体温計、風邪薬) ④裁縫用具

【講評】

山では、体調が万全であっても万が一に備え、医薬品やツエルト等は常に携行するよう心がけてください。装備の携行は学校により徹底されているところとそうでないところに大きな差があります。また、コンパスについては読図に適したもののはシルバコンパスのタイプです。小さなものは読図には向きです。

V. 生活技術 (10点)

1. 設営 (5点) 5項目×1点 評価は0.5点刻み
 - ①手際の良さ (チームワーク、手順、10分以内での設営)
 - ②ザックの雨蓋、袋物の処理、伸ばしたポールの処理 (地面に置かない。)
 - ③ペグ、張り綱の適切さ (本数、位置、角度、打ち込み具合、フライシートとの間隔、張り綱の張り具合)
 - ④軍手の使用 (ペグを持つ手)
 - ⑤テント内の整理 (テントマット、ザックの整理、入り口を開じる)

【講評】

1、フライを放置していたり、雨ぶたが開いたままになっているなど、風雨で飛ばされたりぬれてしまふ状態があつた。
2、張り綱のテンションが足りなかつたり、ペグの角度やペグの浅さによりきちんと張れていないのであつた。

3、フライの縫い目とポールの位置がずれています。また、余計に引っ張られて偏っているテントがあつた。

これらのことを見直し、快適なテント生活が過ごせるようになつてほしい。

2. 妥事 (5点) 5項目×1点 評価は0.5点刻み。

①調理の手順、手際よさ
②水器使用時の軍手使用(0.5) , コンロとコッヘルへの注意 (調理中手をはなさない) (0.5)
③コンロの安定 (コンロ台とその材質) (0.5) , 風防の有無とその扱い(0.5)
④食糧計画との一致(0.5) , 食糧の区分け (2日目の朝食についてチェック) (0.5)
⑤ゴミを出さない工夫(0.5), 調理シート (繰り返しの使用に耐えるものであること。新聞紙や小さすぎるものは不可。不潔な扱いをしていないこと) (0.5)

【講評】

1、オブのチームなどと食材をやりとりしているチームがあつたが、各パーティーで独立した運営が基本です。
2、コンロ台と風防の高さが合っていないチームがあります。
3、調理シートの使い方を注意します。このシートの上に火器を載せてはいけません。衛生面もそうですが、シートがずれてコンロが倒れてしまう危険があります。
4、調味料は適量を持ちましょ。過分に持つと荷物が重くなり、ゴミが増えます。
5、肉などをパックのまま持たないよう。ゴミも出るし、保存状態が悪くなります。
多くのチームはとても工夫し、練習を積み重ねてきたことが伺えました。これからも快適な山生活に向けて頑張ってください。

VI 気象 (7点)

1. 天気図作成 (5点)

気象通報を聞き取り、放送を含め40分で天気図を作成する。

2. 設問 (2点)

気象関係の設問を解答する。「登山部報」の統一学習資料から出題。時間は5分間。

【講評】

天気図を描けるよう、日頃から練習してください。天気図が描けるようになれば、天気図を読めるようになります。日頃の山行に活きてきます。設問に関しては、部報の気象分野をよく読んで学習しておきましょう。

また今後、天気図における等圧線の間隔は2 hPa ずつで書いてください。

VII 知識 (5点)

山域等に関する知識テスト。事前研究資料・山域地形図・登山用語からの出題。時間は20分間。

【講評】

正誤問題は事前学習資料を暗記しただけでは正確に答えるのが難しく、地学的用語の意味を把握し内容をよく理解することが大切です。全体的には地図記号と新村橋の読み方、正誤問題①の正答率が低かったです。出題範囲が絞られているので、きつちり対策をしましょう。
山行まことにその山の様子や地形や歴史などを知ることは楽しい山行につながります。事前学習は、面倒なことからもせませんが大切に実践してください。

VIII 計画・記録 (10点)

1. 計画書 (6点)

①学校名・ペーテイ名 ②緊急連絡先 (夜間) ③メンバーの生年月日 ④保護者名・連絡先
⑤共同装備分担者の記載 ⑥予備食の記載 ⑦医薬品リスト (風邪薬・使用法)
⑧日程表 (出発地から) ⑨手書きの概念図 (方位、主要地点、ルートの記載)
⑩断面図 (標高、水平距離、主要地点)